
『1 ページ』

愛弥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『1ページ』

【Nコード】

N3095J

【作者名】

愛弥

【あらすじ】

テニスの王子様より、忍足と跡部のBL話です。

話の内容は、思い出作りの話です。

（前書き）

この話しは、BLですので、苦手な方は注意してください（＜―＞）
あと、キャラの性格が若干違ったりするので、キャラ崩壊したくない方も注意してください（^―^；）

キミとの

1ページを

ボクは忘れない。

『1ページ』

「こういうのもええなあ」「……そうだな」

緑の草達が揺れる河原に座りながら俺達はそんな会話を交わした。

何故今、青春漫画ではお馴染みの河原にあいつといえるのかというと、あいつが突然寄って行きたいと言ったから。

何時もは通り過ぎていたこの河原の前であいつは足をぴたりと止めて、今いる草原にへと腰を下ろした。

何にも言わないあいつの隣に同じく腰を下ろし、目の前の風景をただただ見つめてた。

小さい子供達がボールで遊んでいたりと、俺達と同じように草原に座りこんで恋ばなかあるいはお洒落話に花を咲かせているだろう女子達。

何だかその風景がいいと思った。

「……なんかさ」

「ん？」

足をぐ、と伸ばしたあいつは地面を見つめながら口を開いた。

「俺らさ、こういう青春臭いものなかっただろ？」

「……え？」

「汗流して部活に打ち込んでるのも青春なんだろうけどさ、こういう…。あんま読んだことねえけど漫画に出てきそうなこんなシーン、なかっただろ？」

言われてみればそうかも知れない。

俺らはただただ馬鹿みたいにテニスばかりしていた。

まあ、それも青春の内に入るのだろうけれど俺らは爽やか系の青春とは無縁だったみたいだ。

「……てか、いきなり青春味わいたくなっただん？」

「あ？そんな暑苦しいこと俺がすると思うか？」

「いや、思わんから疑問に思うとるんやん」

あいつが、青春を味わいたい…だなんて言うと思う訳がない。

あいつはそんな熱い人間じゃない。

あいつはす、と地面から空へと視線を変えると薄く微笑んだ。

何故だか頬が赤らんでいる。

「……思い出作り」

「思い出作り？」

何を言い出すかと思えば思い出作り。

まあ、俺達は今年で卒業だけど、卒業しても同じ高校へと行く。

だから今から思い出作りをしなくても…。

「お前との思い出をさ、いっぱい作りてえなあ…て思ったんだ。――ホラ、青春の1ページとかなんとか言うじゃん？その1ページ、1ページをお前で埋め尽くしたいって思ったんだ」

夕焼けとは別の色が俺の頬を染めた。

何だか嬉しくて。

乙女みたいにあいつに胸をときめかした。

「……たまには、さこういう青春的な1ページもいいかな、と」

恥ずかしそうにあいつは再び地面へと視線を戻した。

1ページ1ページを俺で埋め尽くしたい…だなんて。こんなこと、言って貰えるなんて思っていなかった。今は胸の高鳴りで言葉が出ない…。

「だからこれからさ、色んなところ行ってページを増やそうぜ」

「俺は、何処でもいい」

「あん？」

思い出作りの為にどこかへ出掛けようと言うけれど、そんなこと必要ない。

だって

「景ちゃんと一緒におる一分一秒が、俺の大切な思い出の1ページやから」

カアアア…と感染したかのようにあいつの頬にも色が付き始めた。

特別な場所になんか行かなくなつて、隣にお前さえいてくれたら俺にとつたら最高の思い出や。

部屋で寛いでる、なんもない普通の時間や学校の屋上でお前と食べる昼ご飯の時間とか。

その一つ一つが、大切な思い出。

「……ったく、お前は恥ずかしいことしか吐けねえのか」

「やって本間のことやもん」

「バーカ」

今、こうやって顔を見合つて笑い合つたこの瞬間やって、俺のアルバムのページに貼れるんや。

お前と過ごす時間が全部ここに閉じられるからもうめっちゃ分厚いんちゃうかな。

それ程俺らの思い出があるっていうことや。

……これからも二人で、このアルバムにいっぱい貼ってこな。

キミとの思い出を、
時が過ぎようとボクは
忘れない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3095j/>

『1 ページ』

2010年10月15日22時10分発行